

< 第 6 回 「社会開発」プログラムについて >

現在、サセックス大学修士課程、社会開発プログラム (MA in Social Development) で学んでいる中村千尋です。今週は社会開発プログラムの紹介をさせていただきたいと思います。

このプログラムは、今年サセックス大学社会文化研究学部 (The Graduate School of Social Sciences and Cultural Studies、通称 SocCul) に開設された新しいプログラムです。学生は 20 人。インド、パキスタン、カナダ、イタリア、スペイン、ドイツ、ヨルダン、ノルウェーなど様々な国の学生が学んでいます。今年 20 人のうち日本人が 6 人。地元英国からの学生の数をしのぐマジョリティー集団です。ちなみに日本人の学生は 1 人が社会人経験者、1 人は開発専門学校の出身者で、残りの 4 人は学部を卒業してからサセックス大学に直接留学した学生です。私も今年の 3 月に中央大学総合政策学部を卒業し、10 月から本学修士課程で学んでいます。本コースで学ぶ学生たちは学生時代にボランティアをしたり、NGO や国連で職場経験を積んだ人たちが多く、自分の経験に基づいた意見を授業中に活発に交換します。特にインドやパキスタンから来た学生たちの話す自国の現状についての説得力のある意見は刺激と、新たな気づきを与えてくれます。また社会開発担当のスティラット教授からは常に批判的に考える力を養うようにと教えられ、毎回授業では開発概念について深く考えさせられます。

大学院の授業は 3 タームに分かれていて(ターム期間については第 5 回、「農村開発」プログラム参照)、1 タームにつき最低 2 つの授業を履修します。社会開発修士過程の秋タームは、農村開発コースと合同で行う「開発及び低開発理論 (Theories of Development and Underdevelopment)」と、「社会開発概念 (Concepts in Social Development)」の授業があり、主に開発や社会開発の基礎となっている理論や概念について学びます。たとえば後者の授業の週ごとに変わるテーマの中には、ソーシャル・キャピタル、開発と人権、ミレニアム開発目標などがあります。ひとつの授業は 50 分の講義と、2 時間のセミナー(1 グループ 10 人程度)から構成されており、毎回テーマに沿った文献購読を行うことが必須です。セミナーではその文献購読で得た知識をもとに、クラスメートと議論をすることで理解を深めていきます。私は毎週すべての文献を詳細に理解して読むことは不可能なので、リストの中から 2 つを選んで読むようにしています。最近では日本人の学生の中で文献を分担して読み、セミナー前に日本語で勉強会をして理解を深めることで授業の予習をしています。そのほかにもターム期間中に他プログラムの学生と合同で行うワークショップや開発に関する講義など様々な授業があり、内容も充実しています。

SocCul のコースは他学部とは違い、ターム期間中に論文を提出する必要は無いのですが、長期休み中に各授業につき 1 本、合計 2 本の論文(1 本 5000 語)を書くことが必須です。そのために休み前から論文のテーマを決め、講義を受け持ってください先生と話し合いをしながら構成を考える必要があるためターム期間中はあっという間に時間が過ぎていきます。この先もおそらく来年の 9 月の修士論文提出まであっという間に 1 年間に過ぎていくのでしょうか。しかしサセックスで過ごす 1 年間は必ずや

将来に役立つことを確信していますし、ここで出会った同じ志を持つ友人たちは一生の財産になるでしょう。

最後に、これから留学しようと考えている方にメッセージ。もしまだ留学を迷っている方がいたら、思い切って留学することをお勧めします。私も留学する前は不安でいっぱいでしたが、今は本当にサセックス大学に留学してよかったと実感しています。絶対に後悔することはありません。You can do it!

2003年12月6日

社会開発修士課程 中村 千尋



イギリス大学院名物(?)のパーティ